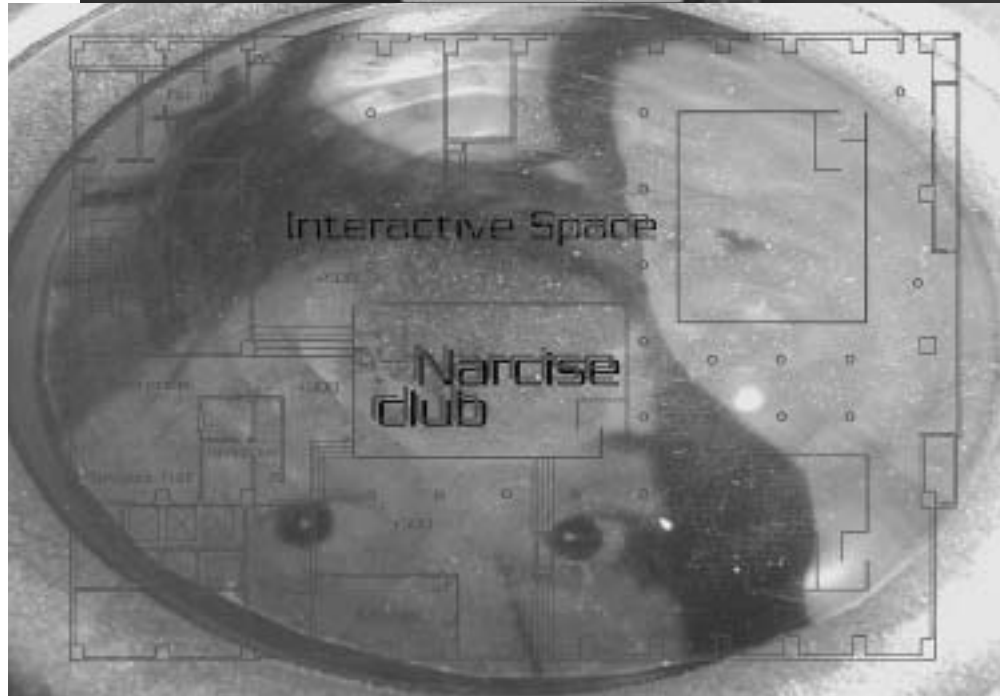




石崎 林太郎



島田 正和

設計演習 I

第 1 課題

バーチャルナイトクラブ
— Virtual night club —

第 2 課題

リトルトリップ
— A little trip —

3年2組

担当=
アストリッド クライン

大空間の中のランダムな人の動き／人の動きと映像のインタラクション／装置を介して発生するコミュニケーション

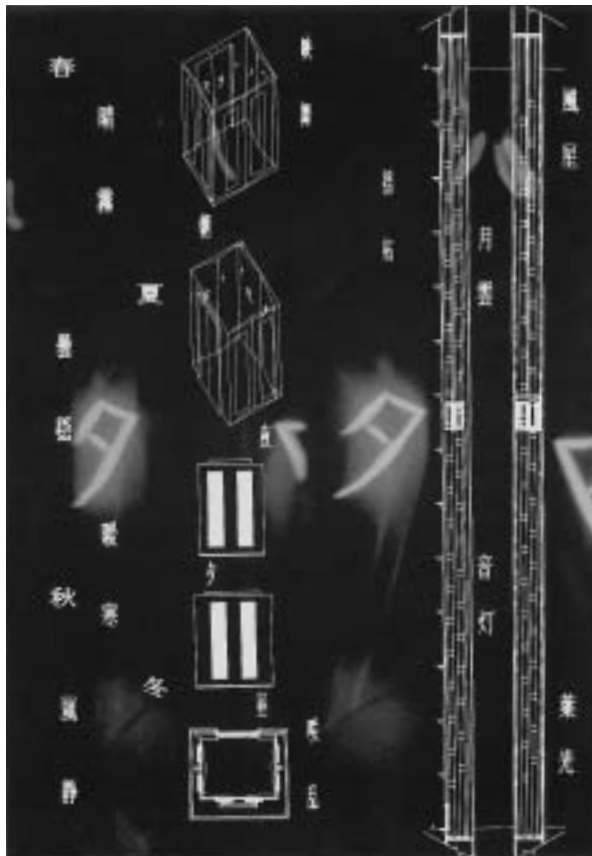
巨大スクリーンの中でうごめく無数の線。やがて人はそれを自分達の軌跡だと知る。同じ番号の線がもう1つあるのに気づき、そのパートナーを探して動き回る。

指導=アストリッド クライン
石崎君はクラブーたちが空間の中で繰り広げるダンスの動きが巨大なスクリーンに色とりどりのみみずのような軌跡を映し出すGPSマップのような仲間探しゲーム的な提案になってい

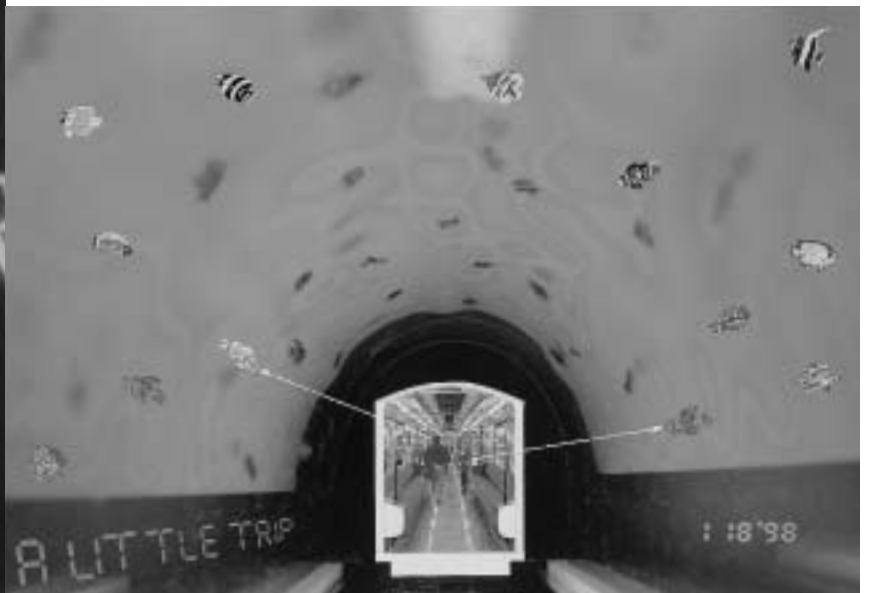
第 1 課題

石崎 林太郎

齋藤 牧



片桐 理恵子



る。シンプルで無駄の無い彼のアプローチは楽しい空間を約束するものである。

第1課題

島田 正和

Narkissos youse [narcisse] who fell in love with his reflection in water...

This space is interactive club where has many different speakers.

Those have water on vibrating thing, and somebody's face is thrown by projector on the surface of water.

And my face is also

projected one of them by CCD camera.

It may be compared to interface with strangers.

指導=アストリッド クライン
ナルシスの神話をうまくもじって作られたかのような人工的な風景の島田君の案はクラブでは自分、たぶん他人も含めて自身の顔がどう見えているかということ以上にアピールするものは無いのだという真実、むしろクラブという自分を飾れる空間だからこそ違和感の無いテーマを利用したところがおもしろい。

第2課題

齋藤 牧

私は、現存するnonstop エレベーターでの21秒という間を、想像する空間にしようと考えた。空間を思い描く一文字の漢字を情報として、文章のように少しずつ乗客に与えていく。それから情報の組合せを変えることにより、さまざまな空間が生みだされる。また映像としてそれらが空間に散らばることで、乗客はエレベーターにいるという意識から遠ざかっていく。そして知らず知らずのうちに仮空間へとリトルトリップしていく。

指導=アストリッド クライン
齋藤さんは乗っているあいだに

漢字が目の前にいくつか現われ、繋げていくなにか俳句や詩のようなものを思い起こさせ、また乗る時々によってもそれが変化する。エレベーターのスピードに合った繊細で意味のあるうまい提案をしている。

第2課題

片桐 理恵子

視覚的に変化がなく、圧迫感のつづく地下鉄のトンネル。人々は電車に乗り込み、電車はトンネルというチューブの中を行き交う。無機質なチューブは、人々の移動(小旅行)を、退屈で窮屈なものにしている。そこで、この小旅行を楽しくす

るために、既存のトンネルに液晶パネルを貼り付け、映像を流す。

すると、無機質だったチューブは、時には海の中、時には森の中へと、次々と表情を変え、電車に乗り込んだ人々を、異空間への小旅行に導いてゆく。

指導=アストリッド クライン
片桐さんは地下鉄のトンネルを巨大な水槽へと変化させた。列車はまるで潜水しているかのように進んでいきデッドスペースにきらきらした生命力をもたせたその空間で乗客はだれもが認める色鮮やかな海の世界の美しさにおどろいて口をあけてしまおうだろう。